ONKYO

INTEC
COMPONENT WORLD

ステレオカセットテープデッキ

K-501A

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目　次

特長

■ 155mm幅のきわめてコンパクトな単品シリーズ

■ ドルビー*B/C NR搭載

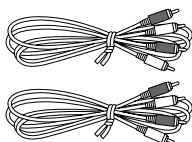
■ ドルビーHX PRO搭載

* ドルビーノイズリダクション及びHX PROヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。HX PRO はバングアンドオルフセンの考案です。
ドルビー、DOLBY、ダブル D 記号及び HX PRO はドルビーラボラトリーズの商標です。

付属品

■ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。

（　）内の数字は数量を表わしています。

●オーディオ用ピンコード（2）

●RIケーブル（1）

●取扱説明書（本書 1）
●保証書（1）

♪音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気を付けてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

- 本機の通風孔、カセットテープの挿入口などから金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

- 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

● 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

● 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

● 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

● 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

指をはさまれないように注意

● お子様がカセット挿入口に手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

● キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

⚠注意

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

各部の名称と働き

■前面パネル

表示は詳しい説明のあるページです。

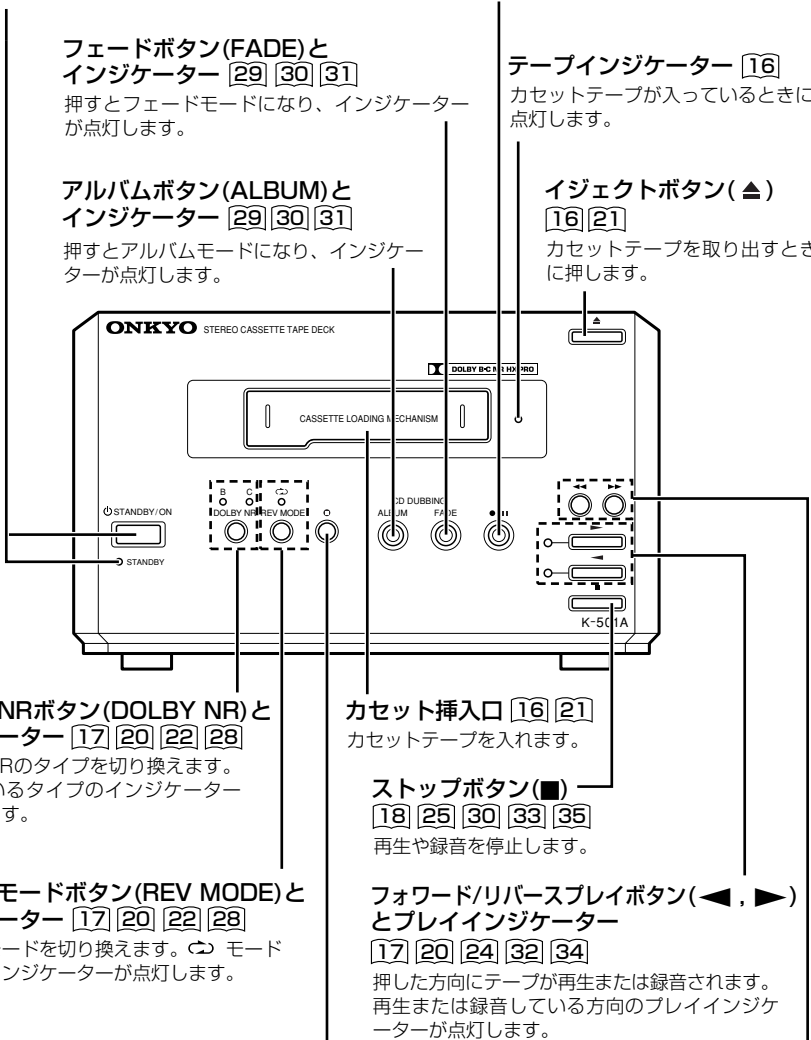
電源ボタン(STANDBY/ON)とスタンバイインジケーター(STANDBY) 16
押すと電源が入り、スタンバイインジケーターが消灯します。

レック/ポーズボタン(●/II)とインジケーター 23 25 31 32 34
押すと録音待機状態となり、インジケーターが点灯します。

フェードボタン(FADE)とインジケーター 29 30 31
押すとフェードモードになり、インジケーターが点灯します。

テープインジケーター 16
カセットテープが入っているときに点灯します。

アルバムボタン(ALBUM)とインジケーター 29 30 31
押すとアルバムモードになり、インジケーターが点灯します。

イジェクトボタン(⏏) 16 21
カセットテープを取り出すときに押します。

ドルビーNRボタン(DOLBY NR)とインジケーター 17 20 22 28
ドルビーNRのタイプを切り換えます。
選ばれているタイプのインジケーターが点灯します。

カセット挿入口 16 21
カセットテープを入れます。

ストップボタン(■) 18 25 30 33 35
再生や録音を停止します。

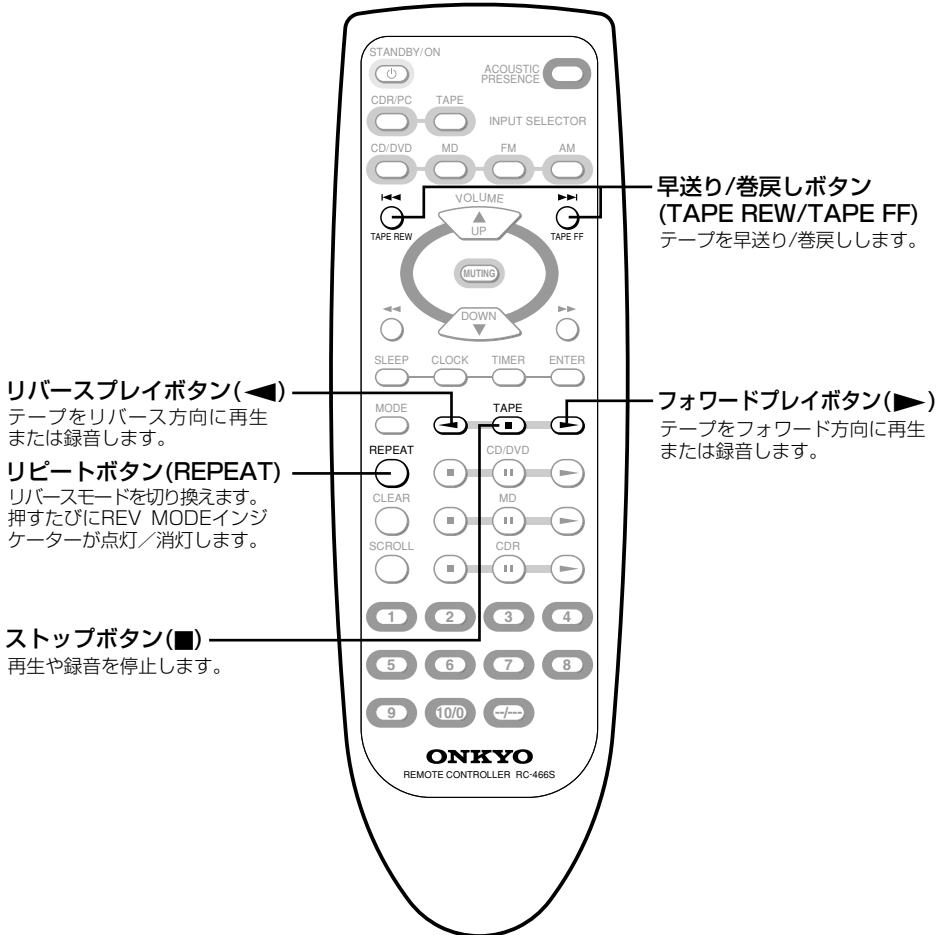
リバースモードボタン(REV MODE)とインジケーター 17 20 22 28
リバースモードを切り換えます。⊃ モードのとき、インジケーターが点灯します。

フォワード/リバースプレイボタン(◀, ▶)とプレイインジケーター 17 20 24 32 34
押した方向にテープが再生または録音されます。
再生または録音している方向のプレイインジケーターが点灯します。

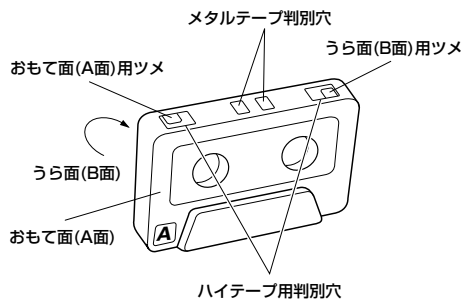
オートスペースボタン(O) 25
無音部分を作るときに押します。

早送り/巻戻しボタン(◀◀, ▶▶) 18 19
テープを早送り/巻戻しします。

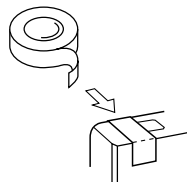
■リモコン

INTEC155シリーズR-801Aに付属のリモコン(RC-466S)
本機には付属していません。

カセットテープについての注意

■ 誤消去防止用ツメについて

カセットには、大切に保存しておきたい貴重な録音を誤って消してしまわないように、誤消去防止用のツメが付いています。

誤消去を防ぐには
ドライバーなどでツメを折る。

再び録音するには
セロハンテープを貼る。

テープの種類を判別する穴をふさぐとオートテープセレクター機能は働きません。

本機はテープをセットするだけで使用するテープの種類を自動的に判別します。(オートテープセレクター機能)

■ テープについて

推奨テープ

ノーマルポジション	ハイポジション	メタルポジション
maxell UD 1	maxell UD 2	SONY ES

おすすめできないテープ

C-120以上のテープは薄く、機器内部のピンチローラーやキャプスタンに巻き込まれたり、切れたりしてトラブルを起こしやすいので、使用しないでください。また、エンドレステープも故障の原因となりますので使用しないでください。

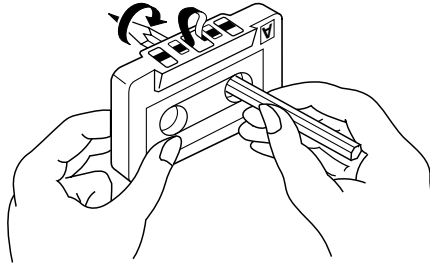
テープの種類判別用穴があいていないテープでは、正しい録音や再生ができないことがあります。

結露について

本機を冷えた所から暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは正常に働かないばかりではなく、テープがいたんだり、からみついたりして正常なテープ走行ができなくなることがあります。結露しているおそれがある場合は、電源を入れて約1時間放置してからご使用ください。また、本機をご使用にならないときは、カセットテープを取り出しておくことをおすすめします。

■ テープがたるんだときは

テープがカセットから飛び出したり、たるんだままでセットすると、テープが機器内部のキャプスタンとピンチローラーの間に入らず、テープを傷める原因となります。このようなときは、図のように鉛筆をリール軸に差し込み、テープのたるみを直してください。

テープのたるみの直しかた

■ ヘッドのお手入れ

ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーはテープの走行によって汚れやすい部分です。クリアーな音を楽しむために再生、録音の前にヘッドを清掃するよう心がけてください。通常は約10時間ごとに清掃してください。

清掃は市販のヘッドクリーニングカセットをお使いください。詳しくはヘッドクリーニングカセットの取扱説明書を参照してください。

- **クリーニングのときは必ずアンプのボリュームを絞っておいてください。**
- **清掃後は、2〜3分間テープを装着しないでください。**

■ テープの保管について

磁気の影響を受けるところ(スピーカー、アンプ、TVの近くなど)や、直射日光の当たるところには置かないでください。また、テープに直接触れたり、ホコリやゴミが付着しないように、使用後はカセットケースに入れて保管してください。

消磁

テープデッキを長時間使用するとヘッドに磁気が残留し、大切な録音済みテープに雑音が入ったり、高音域が出なくなります。約50時間ごとに、市販のカセットタイプのヘッドイレーサーで消磁してください。消磁方法はヘッドイレーサーの取扱説明書を参照してください。

- 消磁のときは、必ずアンプのボリュームを絞っておいてください。

接続

■INTEC155シリーズのR-801A(チューナーアンプ)、C-701A(CDプレーヤー)、MD-101A(MDレコーダー)、CDR-201A(CDレコーダー)と接続する場合

システム接続のしかた
(INTEC155シリーズの接続)

R-801Aの取扱説明書の「接続」の項をご覧ください。

● **本機とR-801Aの接続方法については、次ページをご覧ください。**

INTEC155シリーズの組み合わせでご使用になると、次のシステム機能を使うことができます。

オートパワーオン
本機の電源を入れると、R-801Aの電源が自動的に入ります。また、本機を使用しないときは、本機のみ電源を切ることができます。

ダイレクトチェンジ
本機のプレイボタン(▶または◀)を押すとR-801Aの入力が「TAPE」に切り換わります。

リモコン操作
R-801Aに付属のリモコンで本機を操作することができます。

詳しくはR-801Aの取扱説明書をご覧ください。

タイマー操作
タイマー再生、タイマー録音ができます。

詳しくはR-801Aの取扱説明書の「タイマー演奏と録音」の項をご覧ください。

CDダビング
C-701A(CDプレーヤー)から本機への編集録音をワンタッチで行うことができます。また、好みの2つのモードを選ぶことができます。

詳しくは本取扱説明書26〜31ページをご覧ください。

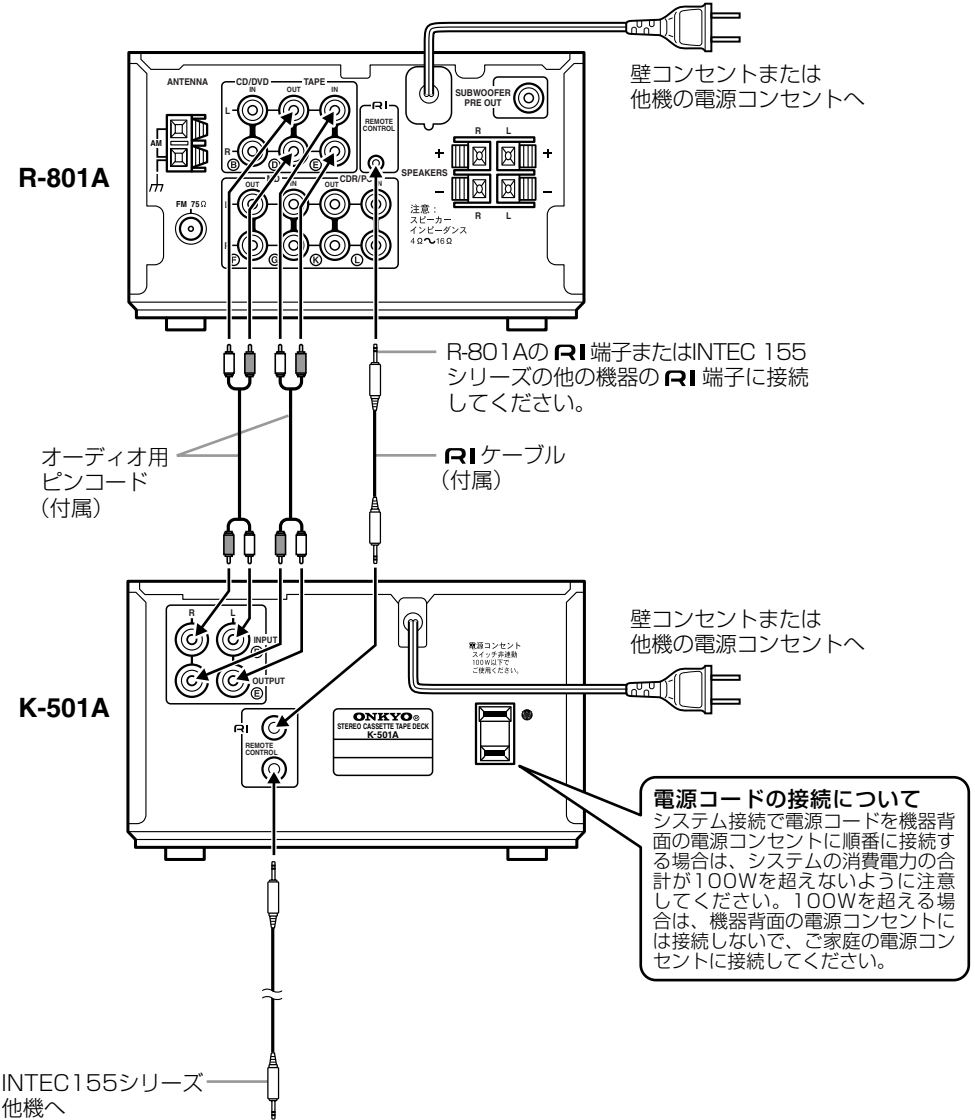
CD、MD、CDRシンクロ録音
CD、MD、CDRから本機への録音を、CD、MD、CDRの再生と同時に行うことができます。

詳しくは本取扱説明書32〜35ページをご覧ください。

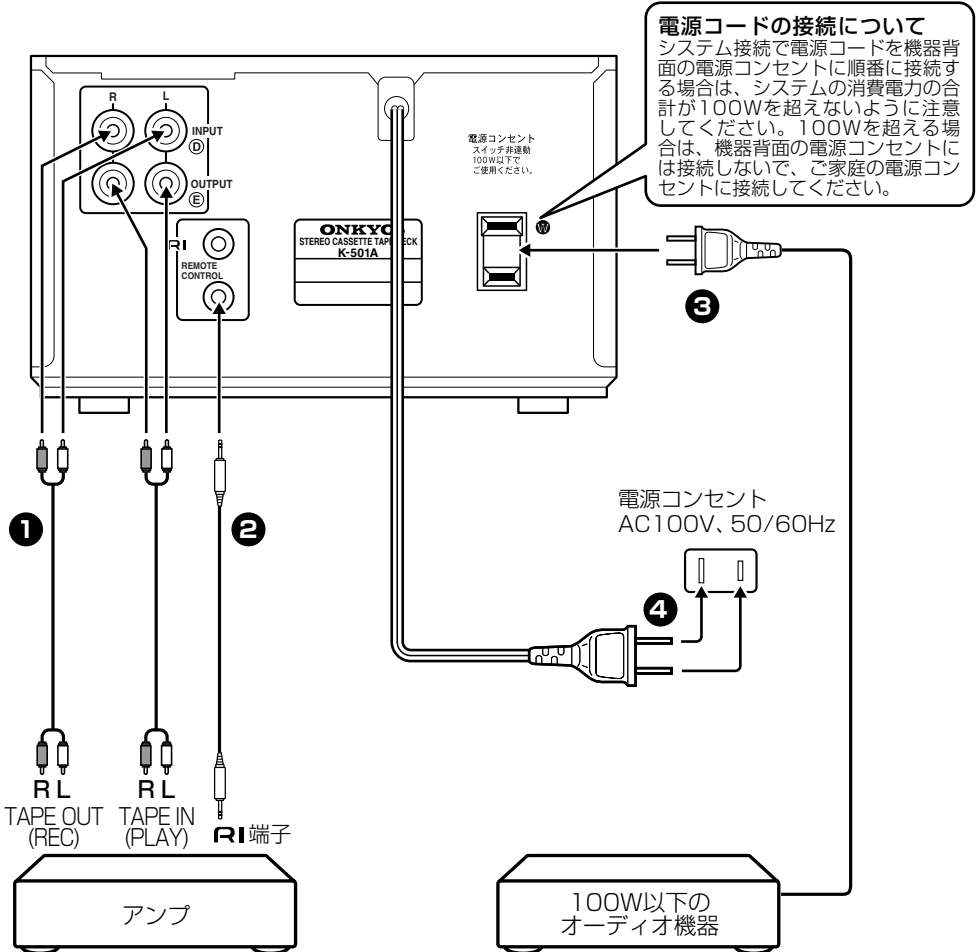
本機からMD、CDRへのシンクロ録音
本機からMD、CDRへの録音を、本機の再生と同時に行うことができます。

詳しくは本取扱説明書35ページをご覧ください。

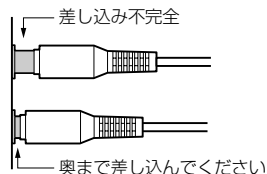
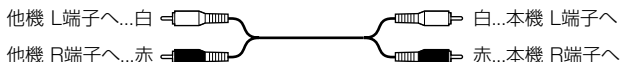
ご注意
- 接続が間違っていると各機能は働きません。R-801Aの取扱説明書の「接続」の項を参照しながら、確実に接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

■本機とINTEC155シリーズのR-801A(チューナーアンプ)と接続する場合

● INTEC155シリーズの他の機器の接続方法は、R-801Aの取扱説明書の「接続」の項をご覧ください。

■他の機器と接続する場合

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

❶ アンプ（またはチューナーアンプ）との接続

アンプ（またはチューナーアンプ）のTAPE端子に本機を接続してください。

- 付属のオーディオ用ピンコード(赤、白プラグ付きピンコード)を使用し、赤いプラグは(R)側に、白いプラグは(L)側に接続します。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねると、音質低下の原因となります。

❷ RIケーブルの接続

RI端子付きオンキヨー製品と、本機に付属のRIケーブルを使って、RI端子どうしを接続してください。
アンプに付属しているリモコンで本機を操作できます。

- RI端子は、RI端子付きオンキヨー製品と組み合わせた場合のみ使用できます。RI端子付きオンキヨー製品以外とは接続しないでください。故障の原因となります。
- RI端子の上下2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

ご注意

接続する機器によってはRI接続しても、一部の機能が働かないことがあります。

❸ 本機の電源コンセントについて

オーディオ機器の電源プラグを差し込むことができます。

ご注意

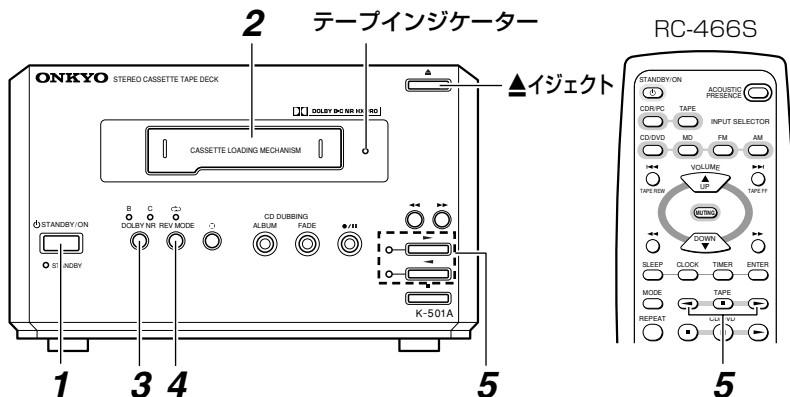
- 本機のスイッチ非連動コンセント(容量合計100W以下)は常時通電しています。**容量を越える機器は絶対に接続しないでください。**
- 他機の電源コードの白いラインなど目印側を本機の電源コンセントの広い方（Ⓦマーク側）に合わせてください。目印がない場合は、どちらを接続してもかまいません。

❹ 電源コードをつなぐ

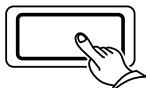
電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。
“STANDBY”インジケーターが点灯します。

テープを聞く

本取扱説明書では、本機をINTEC155シリーズのR-801A、C-701A、MD-101A、CDR-201Aと組み合わせた場合を例に、操作方法を説明しています。

INTEC155シリーズのR-801Aと組み合わせた場合、R-801Aに付属のリモコン（RC-466S）を使って操作することができます。

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

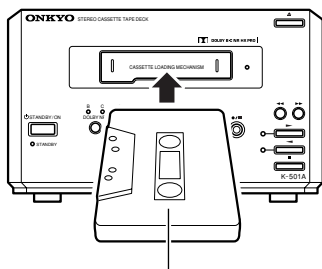
1

⏻STANDBY/ON

消灯 ——○ STANDBY

電源を入れる

スタンバイインジケーター（STANDBY）が消灯します。

- スタンバイ状態のときにカセットテープを入れると、電源が入ります。

2

テープ面を左側にして、再生する側を上向きに入れます。

カセットを入れる

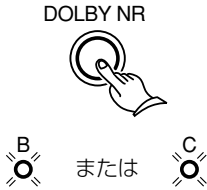
カセットテープはテープ面を左側にして、再生する側(►)を上向きに入れます。

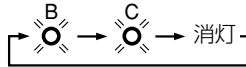
- カセットテープを入れるとテープインジケーターが点灯します。

カセットテープを取り出すときは

イジェクトボタン(▲)を押します。テープを取り出すとテープインジケーターは消灯します。

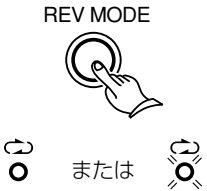
- スタンバイ状態のときにイジェクトボタンを押すと電源が入り、カセットテープを排出します。

3

ドルビーNRのタイプを選ぶ

ボタンを押すたびに

の順に切り換わります。

ご注意

再生するテープの録音時の設定に合わせてください。詳しくは、「ドルビーNRについて」（20ページ）を参照してください。

4

リバースモードを選ぶ

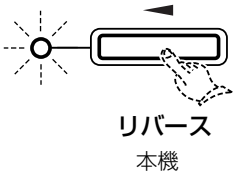
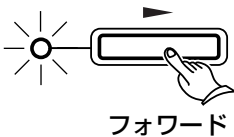
ボタンを押すたびにインジケーターが点灯、消灯をくり返します。

インジケーター消灯時：
片面を再生して停止します。

インジケーター点灯時：
両面をくり返し、8往復再生して停止します。

- 詳しくは、「リバースモードについて」（20ページ）を参照してください。

5

本機

リモコン

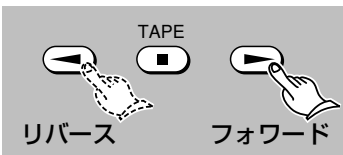
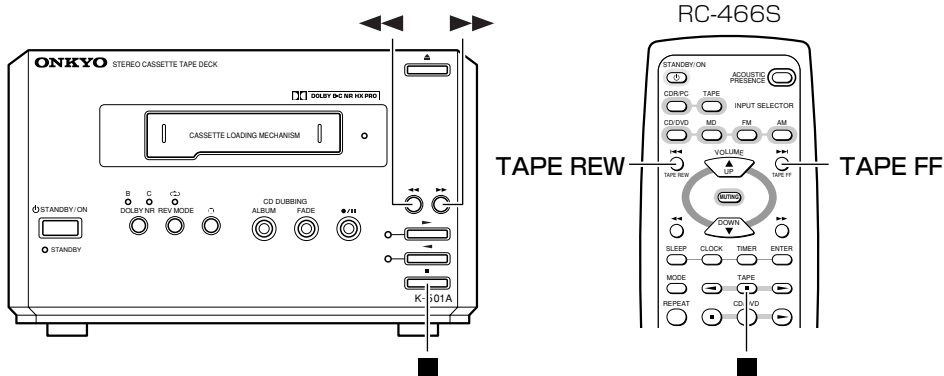
再生を始める

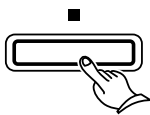
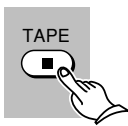
再生したい方向のプレイボタン（◀または▶）を押します。再生方向のプレイインジケーターが点灯します。

ヒント

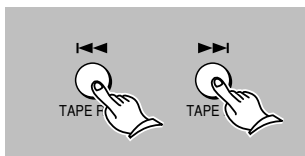
- スタンバイ状態からプレイボタンを押すと電源が入り再生を始めます。
- R-801Aとシステム接続している場合、R-801Aの電源も入ります。

ご注意

R-801Aの音量があまり大きくなりすぎないように音量調整ツマミの位置を確認してください。

テープを聞く

リモコンのボタンは　　で表示しています。

■ 再生を中止する

本機

リモコン

再生中にストップボタン（■）を押すと、再生が停止します。

- 走行方向のプレイインジケーターが少し暗く（半点灯状態）なります。

■ 早送り、巻き戻しをする

- 停止中に▶▶ボタン（またはリモコンのTAPE FFボタン）あるいは◀◀ボタン（またはリモコンのTAPE REWボタン）を押すと、それぞれの方向に早送り、巻戻しをします。
- 途中で停止させたいときは、ストップボタンを押してください。

■ 前後の曲の頭出しをする

再生中の曲の頭に戻りたいときは

フォワード再生中（▶）　　リバース再生中（◀）

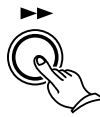
本機

リモコン

本機

リモコン

次の曲の頭出しをするには

フォワード再生中（▶）　　リバース再生中（◀）

本機

リモコン

本機

リモコン

- 再生中に▶▶ボタン（またはTAPE FFボタン）あるいは◀◀ボタン（またはTAPE REWボタン）を押すと、曲と曲の間の無音部分を探すことにより、曲の頭出しができます。ボタンを押してから頭出しが始まるまでの間、走行方向のプレイインジケーターが点灯、半点灯をくり返します。
- 頭出しをしている時に再度▶▶ボタン（またはTAPE FFボタン）を押すと早送りになります。◀◀ボタン（またはTAPE REWボタン）を押すと、巻き戻しになります。

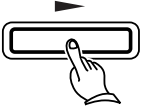
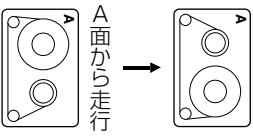
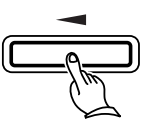
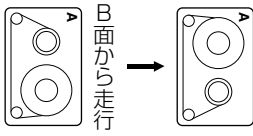
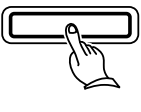
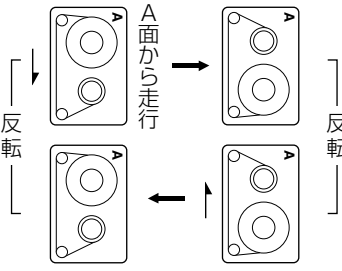
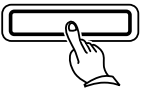
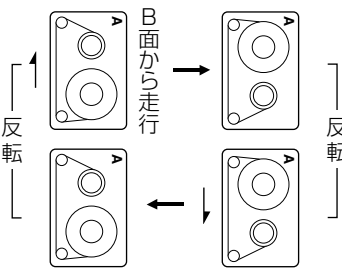
ご注意

頭出し選曲は、曲と曲の間の無音部分（5秒以上）を検出して動作します。したがって、次のようなテープでは正常に動作しないことがあります。

- 曲間に5秒以上の無音部分がないテープ
- 会話などで音が途切れているテープ
- 曲間と間違えるほどの極端にレベルの低い部分のあるテープ（短い静かな部分のあとに大きな音がある場合など）
- フェードイン、フェードアウト録音したテープ

■ドルビーNRについて

ドルビーNR（ノイズリダクション）システム

テープを再生すると、ヒスノイズ(サーという雑音)が出ます。ドルビーNRは、このノイズを低減するシステムです。
本機は、ドルビーNRのBタイプとCタイプを搭載しています。

- ドルビーNR Bタイプは、一般用として広く定着しています。
- ドルビーNR Cタイプは、広ダイナミックレンジ化の要求に対して開発され、Bタイプに比べさらに大きな雑音低減効果があります。

ドルビーHX PRO

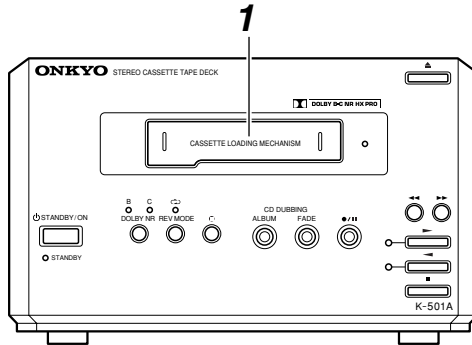
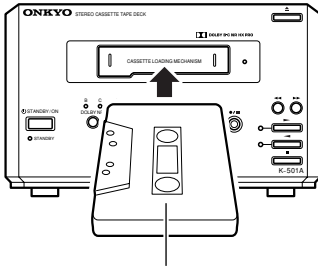
ドルビーHX PROは、音楽信号の中の高域成分に応じて録音バイアス電流を常に最適値にコントロールするシステムです。このシステムによって高域のダイナミックレンジが伸張され、高域成分の多いデジタルソースでもすばらしい録音ができます。この効果はドルビーNRの設定に関係なく得られます。

■ リバースモードについて（カセットテープの上側をA面としています。）

録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

録音用テープは誤消去防止用ツメが折れていないものを使用してください。また、リーダーテープ部（録音できない部分）は巻き取っておいてください。

1

テープ面を左側にして、再生する側を上向きに入れます。

カセットを入れる

カセットテープはテープ面を左側にして、再生する側(▶)を上向きに入れます。

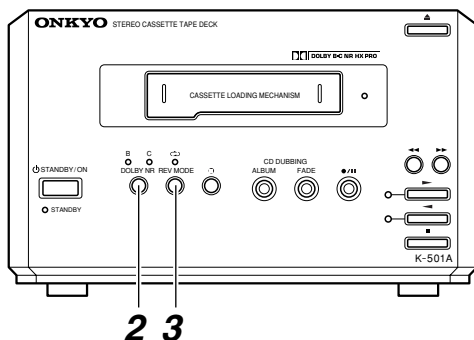
- カセットテープを入れるとテープインジケーターが点灯します。

カセットテープを取り出すときは

イジェクトボタン(▲)を押します。テープを取り出すとテープインジケーターは消灯します。

2

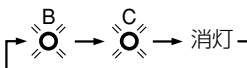
DOLBY NR

B または C

ドルビーNRを選ぶ

ボタンを押すたびに

B → C → 消灯

の順に切り換わります。

ヒント

原音に忠実な再生をするために、録音時のドルビーNRのタイプをメモしておくと便利です。詳しくは、「ドルビーNRについて」（20ページ）を参照してください。

3

REV MODE

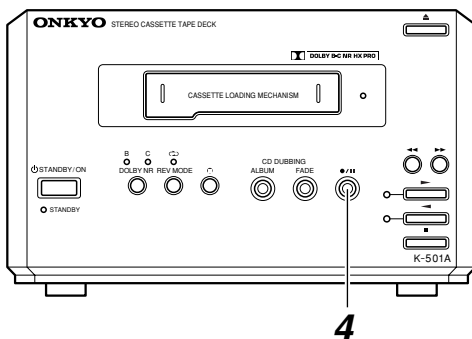
または

リバースモードを選ぶ

ボタンを押すたびにインジケーターが点灯、消灯をくり返します。

インジケーター消灯時：
片面を録音して停止します。

インジケーター点灯時：
A面、B面を録音して停止します。

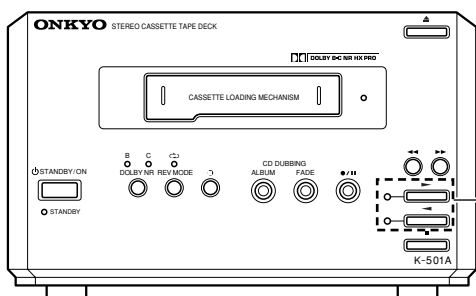
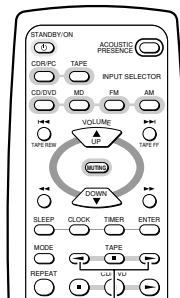
- 詳しくは、「リバースモードについて」（20ページ）を参照してください。

4

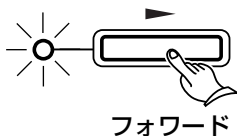
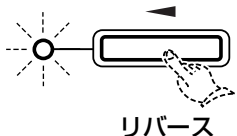
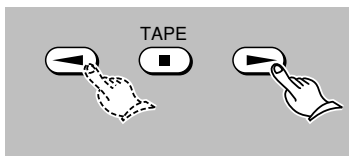
録音待機状態にする

本機のレック／ポーズボタン（●／II）を押して、録音待機状態にします。

- レック/ポーズインジケーターが点灯します。

C-701Aから録音する場合は、「CDシンクロ録音について」（32ページ）を参照してください。

録音する

リモコンのボタンは　　で表示しています。

5

本機

リモコン

録音する方向を選ぶ

録音したい方向のプレイボタン（◄または►）を押します。

- プレイインジケーターが少し明るくなります。

ご注意

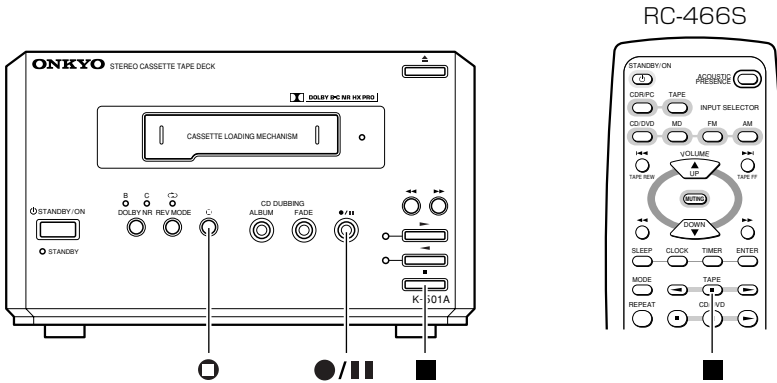
リバース方向から録音する場合、リバースモードインジケーターが点灯（ モード）していても片面のみの録音となります。

6 録音する機器を再生する

R-801Aを操作して録音する機器を再生します。録音が始まります。

録音を停止するには

ストップボタン（■）を押します。

RC-466S

■録音を一時停止する

録音を再開するには、▶または◀ボタンを押してください。

録音中にレック／ポーズボタン（●／▌▌）を押すと、録音が一時停止します。プレイインジケーターが少し暗くなります。

オートスペースについて

録音中または録音待機中にオートスペースボタン（◘）を押すと、プレイインジケーターが点灯、半点灯をくり返しながら約5秒間の無音部分を作ったあと録音待機状態になります。5秒以上の無音部分を作りたいときはオートスペースボタンを押し続けてください。5秒以下にしたいときは、プレイインジケーターが点灯、半点灯をくり返している間にレック／ポーズボタンを押してください。

■録音を中止する

本機

リモコン

録音中にストップボタン（■）を押すと、録音が停止します。

- レック/ポーズインジケーターが消灯します。

当社製FRシリーズやセパレートタイプのチューナー、カセットデッキから録音する場合の録音レベルの設定は35ページをご覧ください。

CD ダビング（システム操作）

■CDダビングについて

CDからテープに録音するとき、本機をINTEC155シリーズのR-801A(チューナーアンプ)、C-701A(CDプレーヤー)と組み合わせると、次のような操作を自動的に行います。

- CDのピークレベルを検出して録音レベルを自動設定
- テープの巻き戻し
- A/B両面へのテープ編集

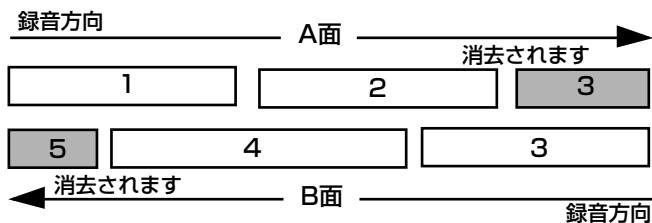
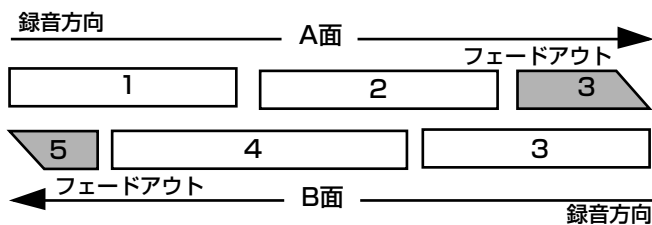
CDダビングには次のモードがあります。

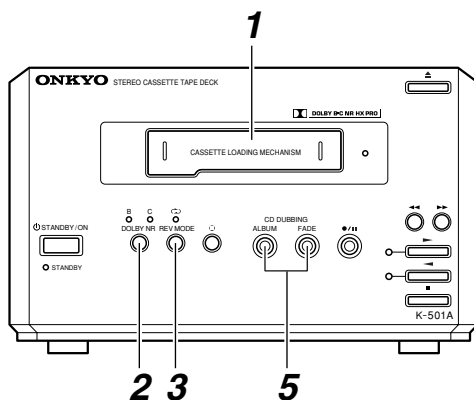
モード	目的
アルバムCDダビング （28～29ページ）	途切れる曲を削除してB面に録音し直します。
フェードアウトCDダビング （28～29ページ）	A面の最後に途切れる曲にフェードアウトをかけてB面に録音し直します。

コンティニアス（連続）CDダビング （30ページ）	2枚以上のCDを使った編集テープを作ります。
巻き戻ししないCDダビング （31ページ）	テープの途中から編集テープを作ります。

ご注意

- 操作前にあらかじめ接続の確認をしてください。RIケーブルとオーディオ用ピンコードが正しく接続されていない場合、CDダビング操作はできません。接続を確認してください。
- **CDR-201A（CDレコーダー）から本機へのダビングは働きません。**

	編集動作
	A面で最後まで録音できなかった曲を消去し、改めてB面の1曲目として録音します。 B面で最後まで録音できなかった曲も消去されます。
	A面で最後まで録音できなかった曲を途中でフェードアウト（徐々に音量を小さくし）し、改めてB面の1曲目として録音します。 B面で最後まで録音できなかった曲もフェードアウトされます。

	本機またはC-701Aのストップボタン（■）を押して編集動作を止め、CDを入れ替えて本機のCDダビングボタン（CD DUBBING）を押すと、再びCDダビングがスタートします。このとき、巻き戻しはしません。
	レック／ポーズボタン（●／▌▌）を押してからCDダビングボタンを押すと、テープの巻き戻しをせずにCDダビングがスタートします。

■アルバム/フェードアウトCDダビング

1 カセットを入れる

手順1から3については「録音する」の（21～22ページ）をご覧ください。

ご注意

カセットを入れる方向を間違わないようにご注意ください。

2 ドルビーNRのタイプを選ぶ

DOLBY NR

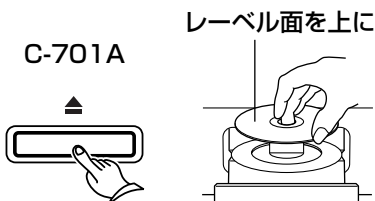
B または C

3 リバースモードを選ぶ

REV MODE

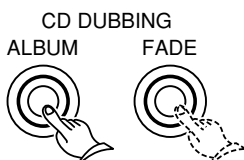
または

4

レーベル面を上に

C-701A

録音したいCDを入れる

C-701A側で録音したい曲をメモリーしておくと、メモリー曲だけのCDダビングができます。（詳しくは、C-701Aの取扱説明書の「予約演奏をする（メモリー演奏）」の項を参照してください。）

5

CDダビングを始める

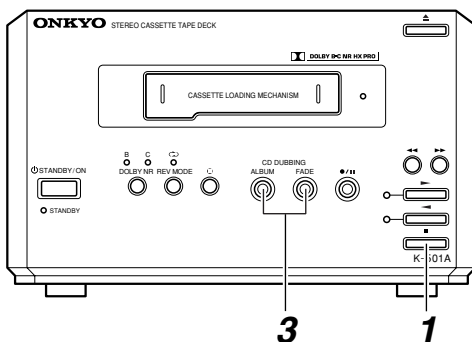
アルバムボタン（ALBUM）またはフェードボタン（FADE）を押します。

- 押したボタンのインジケーターが点灯します。
- アルバムボタンまたはフェードボタンを押すとテープは片側方向へ巻き戻しを始めます。同時にC-701Aはディスク全体を高速で演奏して演奏レベルの最も高いところを探します。この動作が完了した後、本機はリーダーテープ部(テープの両端にある透明な録音できない部分)を避けるため、A/B両面の初めの10秒間は無音部分を作ります。本機やCDプレーヤーがこの動作を終えるまで、どのボタンもさわらないでください。
- 無音部分を作っている間、プレイインジケーターは点灯、半点灯をくり返し、録音が始まると点灯に変わります。

CDダビングを止めるには
本機またはC-701Aのストップボタン（■）を押します。

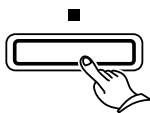
ご注意

- CDやテープが正しくセットされていないとき、または本機とC-701Aが停止状態でないときは、フェードまたはアルバムインジケーターが点滅し、編集はスタートしません。
- 1曲の長さがテープの片面に収まらない場合、その曲は消去されず、A面からB面にそのまま続けて録音されます。
- フェードアウトはリーダーテープ部分によって、完全に録音できない場合があります。
- テープ終端の余りが約30秒以下の場合、録音できません。

■コンティニアス（連続）CDダビング

ご注意

テープに続けて録音できる残量があることを確認して操作してください。

1

■

CDダビングを止める

本機またはC-701Aの編集動作を止めます。

ご注意

停止後は本機の操作をしないでください。本機側の操作をすると、CDダビング状態が解除されます。

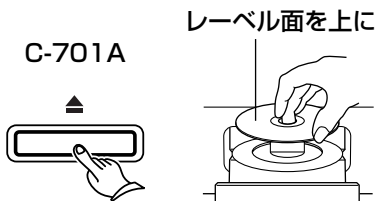
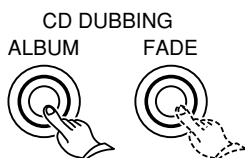
2

C-701A

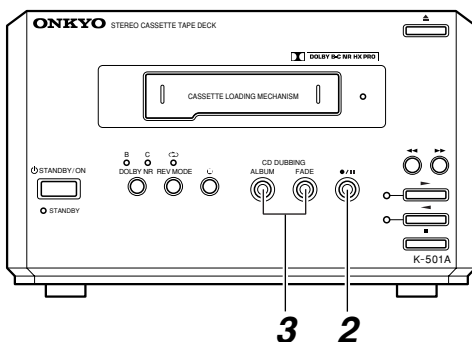
レーベル面を上に

CDを入れ換える

3

CD DUBBING
ALBUM　FADE

CDダビングを再開する

アルバムボタン（ALBUM）またはフェードボタン（FADE）を押します。
テープは巻き戻しをせず、約5秒間の無音部分を作り、ダビングを再開します。

■巻き戻ししないCDダビング

1 CDダビングの準備をする

- カセットを入れる
- ドルビーNRのタイプを選ぶ
- リバースモードを選ぶ
- 録音したいCDをセットする

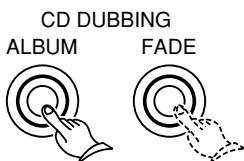
詳しくは、「アルバム/フェードアウトCDダビング」（28～29ページ）をご覧ください。

2 本機を録音待機状態にする

点灯

レック／ポーズボタン（●／II）を押します。
- レック/ポーズインジケーターが点灯します。

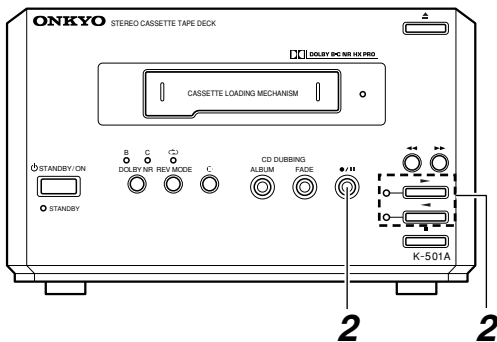
録音面を切り換えるには
レック／ポーズボタンを押しながら、プレイボタン（►または◄）を押します。

3 CDダビングを始める

アルバムボタン（ALBUM）またはフェードボタン（FADE）を押します。
- 押したボタンのインジケーターが点灯します。

テープは巻き戻しをせず、約5秒間の無音部分を作り、ダビングを再開します。

シンクロ録音（システム操作）

■CDシンクロ録音について

- 本機をINTEC155シリーズのR-801A、C-701A（またはCDR-201A）とRIケーブルで接続した場合、録音待機状態にしてからCDの演奏を始めるだけで自動的に本機の録音も始まります。
- ライブ盤やクラッシックなどのCDでテープの片面に録音しきれないような長い曲などはシンクロ録音してください。

1 録音準備をする

- カセットを入れる
- ドルビーNRのタイプを選ぶ
- リバースモードを選ぶ
- 録音したいCDをセットする

→ 詳しくは「録音する」の手順1～3（21～22ページ）を参照してください。

2

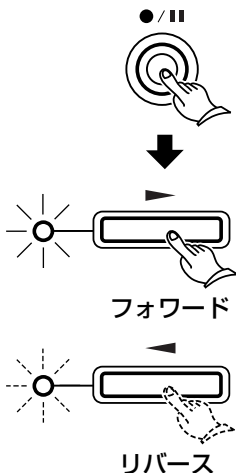
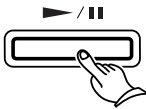
録音待機状態にする

レック／ポーズボタン（●／II）を押しながらプレイボタン（►または◄）を押してテープの走行方向を決めます。

- レック/ポーズインジケーターとプレイインジケーターが点灯します。

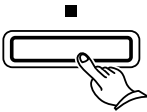
ご注意

◄方向から録音する場合、リバースモードインジケーターが点灯（ モード）していても片面のみの録音となります。

3

CDの演奏を始める

プレイ/ポーズボタン（►/❚❚）を押すと、録音が始まります。
- プレイインジケーターが少し明るくなります。

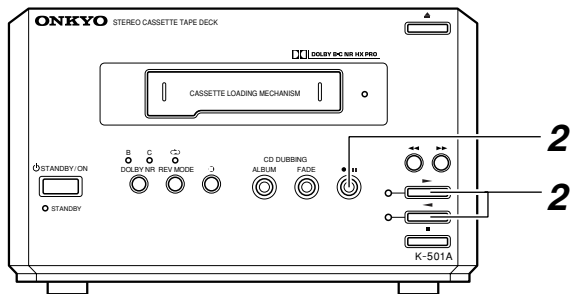
C-701A（またはCDR-201A）側で録音したい曲をメモリーしておくと、メモリー曲だけのCDシンクロ録音ができます。（詳しくはC-701A（またはCDR-201A）の取扱説明書を参照してください。）

■CDシンクロ録音をやめるには

ストップボタン（■）を押します。
- レック/ポーズインジケーターが消灯します。

ストップボタンを押すと本機は停止しますが、CDの再生はそのまま続きます。
CDの再生を止めるには、C-701Aのストップボタン（■）を押してください。
また、本機のストップボタンを押す前に、C-701Aのストップボタンを押すと、本機は約5秒間の無音部分を作り録音待機状態になります。

シンクロ録音（システム操作）

■MDシンクロ録音について

- 本機をINTEC155シリーズのR-801AとMD-101Aを**RI**ケーブルで接続した場合、本機を録音待機状態にしてからMDの再生を始めるだけで自動的に本機の録音も始まります。
- ライブ盤やクラッシックなどのMDでテープの片面に録音しきれないような長い曲や、テープの途中から録音したいときなどはシンクロ録音してください。

1 録音準備をする

32ページの手順1を参照し、録音準備をしてください。

録音待機状態にする

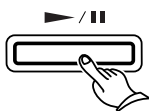
レック／ポーズボタン（●／II）を押しながらプレイボタン（►または◄）を押してテープの走行方向を決めます。

- レック/ポーズインジケーターとプレイインジケーターが点灯します。

ご注意

◄方向から録音する場合、リバースモードインジケーターが点灯（ ⊂⊃ モード）していても片面のみの録音となります。

3

MD-101A

MDの再生を始める

プレイ／ポーズボタン（►／II）を押すと、録音が始まります。

ヒント

MD-101A側で録音したい曲をメモリーしておくと、メモリー曲だけのMDシンクロ録音ができます。（詳しくはMD-101Aの取扱説明書「予約再生をする（メモリー再生）」の項を参照してください。）

■MDシンクロ録音をやめるには

ストップボタン（■）を押します。
● レック/ポーズインジケーターが消灯します。

ご注意

ストップボタン（■）を押すと本機は停止しますが、MDの再生はそのまま続きます。
MDの再生を止めるには、MD-101Aのストップボタン（■）を押してください。
また、本機のストップボタンを押す前に、MD-101Aのストップボタンを押すと、本機は約5秒間の無音部分を作り、録音待機状態になります。

■録音レベルについてのご注意

本機を当社製FRシリーズ*（CD/MDチューナーアンプ）と接続して録音する場合、またはセパレートタイプのチューナーやカセットデッキから録音する場合、録音レベルが低く設定されます。（初期設定）
適正な録音レベルは以下の手順で変更することができます。
①電源ボタン（STANDBY／ON）を押して、本機をスタンバイ状態にする。
②ドルビーNRボタン（DOLBY NR）と▶▶ボタンを同時に押す。
（ALBUM、FADE、●／❚❚インジケーターが点灯し、設定が完了します。）

初期設定に戻すには
①電源ボタンを押して、本機をスタンバイ状態にする。
②ドルビーNRボタンと◀◀ボタンを同時に押す。
（DOLBY B、C、REV MODEインジケーターが点灯し、設定が完了します。）
または、電源プラグをコンセントから抜いて、再度コンセントに差し込む。
＊FRシリーズ（CD/MDチューナーアンプ）の単体名：
FR-X9、FR-X7、FR-V77、FR-V5、FR-V7、FR-V3、FR-155A、FR-155、FR-435

■本機からMD-101A、CDR-201Aへのシンクロ録音

MD-101A/CDR-201Aが録音待機状態になっているときに、本機を再生するとR-801Aの入力が自動的に「TAPE」になり、本機からMD-101A/CDR-201Aへのシンクロ録音が始まります。
本機を再生し、MD-101AまたはCDR-201Aの取扱説明書の「アナログ入力を録音する」を参照し、録音レベルの調整をしてください。その後、本機の再生を停止し、録音したい位置まで巻戻して再び再生してください。シンクロ録音が始まります。
シンクロ録音を停止するには、本機のストップボタンを押してください。

ご注意

RIケーブルの接続およびシステム接続がまちがっているとシンクロ録音はできません。MD-101AやCDR-201Aの接続についてはR-801Aの取扱説明書の「接続」の項を参照しながら、確実に接続してください。

故障？と思ったら

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名K-501A」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

症状	原因	処置
電源が入らない。	●電源プラグの差し込みが不完全になっている。	●電源プラグを電源コンセントに確実に差し込み直してください。(14ページ参照)
録音操作をしても動作しない。	●カセットテープの誤消去防止用ツメが折られている。	●誤消去防止用ツメの部分にセロハンテープを貼ってください。(10ページ参照)
音がかすれたり、左右の音のバランスがくずれる。	●ヘッドにゴミが付着している。	●ヘッドを清掃してください。(11ページ参照)
	●テープが片伸びしている。	●テープを交換してください。
ザーザーと雑音が多い。	●ヘッドが磁化されている。	●消磁してください。(11ページ参照)
	●雑音の多いテープを使用している。	●テープを交換してください。
音がひずむ。	●録音したテープにひずみがある。	●録音したテープ自体のひずみでないか別のテープと替えてテストしてみてください。
再生時にブーンというハム音が入る。	●接続コードの差し込み不完全。	●確実に接続し直してください。(14ページ参照)
	●外部(テレビ等）からの誘導雑音。	●雑音源（テレビ等）より離してください。または雑音源の電源を切ってください。
音がワウワウとうなったり、音飛びがおこる。	●ヘッド、ピンチローラー、キャプスタンの汚れ。	●清掃してください。(11ページ参照)
	●テープが段付きになっていて堅く巻かれている。	●早送りで巻き直してください。
高音が強調される。	●ドルビーNRを使用して録音しているテープをドルビーNRを使用せずに再生している。	●ドルビーNR B、またはNR Cにして再生してください。(20ページ参照)

症状	原因	処置
高音が出ない。	●ヘッドが汚れている。	●ヘッドを清掃してください。(11ページ参照)
	●ドルビーNRを使用せずに録音したテープをドルビーNR BまたはNR Cで再生している。	●ドルビーNRを使用せずに再生してください。(20ページ参照)
選曲ができない。	●テープの無音部分が短いか、ノイズが多くて選曲できない。	●(19ページ参照)
スタンバイインジケーターが早く点滅して、操作ボタンを押しても動作しない。	●メカが誤動作した。	●電源プラグを抜いて、再度電源プラグを入れ直してください。 それでも直らないときには、当社サービスステーションにご連絡ください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約５秒後に改めて電源プラグを入れてください。

ご注意　製品の故障により正常に録音ができなかったことによって生じた損害については保証いたしかねます。大事な録音をするときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音いただきますようお願いいたします。

主な仕様

型　　　　式：	ステレオカセットテープデッキドルビーNRシステム内蔵
トラック型式：	4トラック2チャンネルステレオ
録音方法：	ACバイアス
消去方法：	AC消去
テープ速度：	4.8cm/sec
ワウ・フラッター：	0.1%（WRMS）±0.2%W PEAK
周波数特性：	30～13000Hz±3dB※　ノーマル 30～14000Hz±3dB※　ハイ 30～15000Hz±3dB※　メタル
S　N　比：	54dB（3% THDレベル、メタル、ドルビーNR OUT） Btype INで10dB（5kHz）向上 Ctype INで20dB（5kHz）向上
入力ジャック：	2
最大入力感度：	500mV
入力インピーダンス：	50kΩ
出力ジャック：	2
基準出力：	500mV
負荷インピーダンス：	50kΩ以上
モーター：	DCサーボモーター1個
ヘッド：	ハードパーマロイヘッド1個（録音、再生） フェライトヘッド1個（消去）
電　　　　源：	AC100V、50/60Hz
消費電力：	12W（電気用品安全法技術基準）
待機時電力：	6.2W
外形寸法 （幅×高さ×奥行）：	155×94×297.5mm
質　　　　量：	2.5kg

※ 印は(社)電子情報技術産業協会(JEITA)(旧(社)日本電子機械工業会(EIAJ))規格に定められた測定方法によります。
仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30〜17:30　(土日祝、弊社休日除く) ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e-mail：ホームシアター/オーディオ製品→customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL：ナビダイヤル0570-01-8111(全国どこからでも市内料金で通話いただけます) または072-831-8111(携帯電話、PHSから)へどうぞ。 ＊FAX：072-831-8124　〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com

修理窓口　修理のご依頼は取扱説明書の「故障？と思ったら」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

パソコン用スピーカー以外のマルチメディア製品は、

マルチメディアサポートセンター	TEL.072-831-7305　FAX.072-831-8124 〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

ホームシアター/オーディオ製品とパソコン用スピーカーは、

札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北28条ビル
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571　FAX　022-257-7330 〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル 1F
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034　埼玉県さいたま市土呂町2-29-2　高安ビル 1F
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312 〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013　大阪市港区福崎2丁目1番地49号
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

2001年6月現在　お客様相談窓口、修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

F-1

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(K-501A)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では、本機の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.onkyo.co.jp/

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくは、「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。

●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

SN 29343265
Printed in Japan
G0110-1